

## 三浦市立三崎中学校

研究テーマ：確かな学力と豊かな社会性を育むカリキュラム  
～思慮深い生徒を育むカリキュラムデザイン～

### 1、実践の目的

これまで「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善」を研究テーマとし、特に生徒の学力向上に力を入れて取り組んできた。生徒の学力に課題がある一方で、考えることをすぐに諦めることや、他人のことを考えず発言するといった課題も見られる。上記のような生徒の実態を踏まえながら、三崎中学校として育みたい資質能力を昨年度検討し、思慮深さというキーワードが得られた。今年度は授業改善に加え、学校教育目標の具現化のために、生徒の思慮深さを育むカリキュラムマネジメントを推進する。

表1 校内研究会

4月上旬	グループ別会議①（年間計画、1学期計画）
4月21日	第1回校内研究会（講演会①）
5月9日	第2回校内研究会（授業研究会・講演会②）
6月20日	第3回校内研究会（授業研究会・協議会①）
8月下旬	グループ別会議②（1学期反省、2学期計画）
8月26日	第4回校内研究会（講演会③）
11月7日	第5回校内研究会（授業研究会・協議会②）
12月下旬	グループ別会議③（2学期反省、3学期計画）
1月18日	第6回校内研究会（授業研究会・協議会③）
3月下旬	グループ別会議④（年度総括・来年度に向けて）

### 2、実践の内容

#### （1）校内研究の組織体制

校内の組織を授業改善グループ、学習評価グループとカリキュラムグループの3つの研究グループに分けた。すべての教員がいずれかのグループに所属し、全職員体制の下で校内研究を進めた。学期ごとにグループ会議を設定し、課題解決に向けた取り組みを検討した。

#### （2）校内研究会の実施

6回の校内研究会を実施した（表1）。授業研究会ではすべての教科授業を担当している教職員が必ず1回研究授業を行った。外部講師として東京医療学院大学保健医療学部客員教授の三浦修一先生をお招きし、授業改善のアドバイスを頂いた。

表2 授業研究会

グループ	学年	教科	内容
言語能力	2年	国語	源氏物語
	1年	英語	過去形で思い出を表現しよう
	2年		三浦の良さを世界に発信できるように、“There”と“動名詞”を使いこなそう！
	3年		夏休みの予定
	1年	音楽	映像にどのような音楽をつけたか鑑賞し、各班の「秘密のタイトル」を当てる
	1年	美術	彫刻作品の鑑賞
情報活用能力	1年	数学	数学を使い様々な大きさ、容積を予想・推定できるか
	2年		みんなで検証！ ～サイコロの1の目がでる確率～
	3年		相似な図形を作図しよう
	1年	理科	分類クイズを作ろう
	3年		あなたは自然とどう関わる？
問題解決能力	1年	社会	聖徳太子はどのような国を目指したのだろうか
	3年		ロールプレイで自由民権運動を考える
	1年	技術	ものづくり
	2年	家庭	SDGsな家ってどんな家？ 21世紀の夢が詰まった家を提案しよう
	2年	体育	挑戦→アドバイス →見栄えの向上→できる喜び

授業研究会を教科横断的な視点で協議するために各教科を3つのグループに分けた。ここでのグループは学習指導要領の総則を参考に、学習の基盤となる3つの資質・能力に基づいて分けた。

授業者は学習の見通しを生徒と共有するために单元ごとに学習プラン作成した。単元の核となる問いを作成し、その問いの解決に向かうように授業を計画した(表2)。

研究授業の後に教員と生徒の間で授業カンファレンスの時間を設けた。カンファレンスの中では生徒に様々な質問をしながら授業をより良いものにするための検討を行った。また、その後教員のみでカンファレンスを行った。教員は授業の参観や生徒への質問の中での気づきをキーワードとして挙げ、そのキーワードを基に協議を行った。

### 3、実践の成果

#### (1) 校内研究会の成果

すべての教員が事前に講師の先生に学習プランを指導して頂き、研鑽を深めることができた。カンファレンスの中で出た「タイピングの練習をしたい」という生徒の意見を反映し、学級活動へ生かすことができた。

#### (2) 授業改善グループの成果

外部講師により「主体的に、自律的に学習する生徒を育てる授業」というテーマのもと7つの視点が示された。視点の中でも特に生徒の実態に応じた多様な学び方に配慮し、日々の授業実践を行った。学期ごとにお互いの実践の共有を行った。

#### (3) 学習評価グループの成果

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』を参考にしながら、内容のまとめりに学習評価を行った。学

期ごとの観点別学習状況の総括を、評価結果を数値に置き換えて実施する場合と評価結果の数を基に実施する場合を比較検討した。それぞれの方法に対してそのノウハウを蓄積することができた。

#### (4) カリキュラムグループの成果

生徒の実態も踏まえ、学校教育目標の見直しに着手した。取り組みを進めることで、学校教育目標だけでなく、学年経営案、授業や行事のあり方、職員の意識などについて改めて考える機会となった。

## 4、今後の展開

#### (1) 今後の研究の方向性

全員がいずれかの研究グループに所属する全職員体制を継続する。また授業研究会では全職員が一度は授業者として経験し、授業力の向上に努める機会とする。外部講師の三浦先生には次年度も継続して携わって頂く。生徒の思慮深さを育てるためのより具体的な手立てを次年度検討していく。

#### (2) 次年度の課題

授業研究会では教員の授業力の向上に努めてきたが、教員個々で授業内容を考えることが多かった。授業研究会の事前検討の機会を新たに設定し、学校として学習プランを検討できるような組織体制の検討が必要である。また日々の授業の中で生徒の思慮深さを育てるという視点が不十分だった。授業改善グループを中心に、日々の授業の中でも生徒の思慮深さを育てるように具体的な取り組みの検討が必要である。学校教育目標の具現化に向けて、カリキュラムグループで見直した内容を実際に次年度の計画に組み込み、その背景を全職員に発信・共有することに課題がある。